

平和、福祉を守り抜く

公明、各地で新春街頭演説会

若者の社会保障充実

北朝鮮問題 国際社会と協調し解決

2018年明け、公明党は白から全国各地で街頭演説会を開いた。山口那津男代表、井上幹幹事長は、公明党が平和や福祉の分野で次の時代を担った政策を掲げ、実現してきたこと、国民の希望を担う公明党として期待に応えていくと訴えた。■関連記事7面

山口代表、井上幹事長が強調

【東京】山口代表は2日として、議員が地域に根を張り、党員らと共に行動し、そうした政策の役割を担っていく重要性を認め、「公明、今では連立政権の中で

公明党がいるから安心だという存在になった」と力説。党のネットワークを生かしながら、「平和や福祉、災害に強い国土づくりの目標を掲げ、国民の声を政策に反映させる公明党が連立政権にいる安心感を強くしたい」と訴えた。

公明党が進めてきた「大衆福祉」の充実に向けては、私立高校授業料の無償化など教育負担の軽減が実現した成果を上げ、「社会保障制度を全世代型に変え、これからの時代を担う若い世代を育てることが今後の社会の大きな行方になる」と指摘。北朝鮮問題への対応については、北朝鮮に対する圧力を強化すると同時に、「日本が国際社会と協調し、公明党が連立政権の中で対話による解決を訴えていく」と強調した。

一方、太田議長は、2020年東京五輪・パラリンピックに向け「世界のパラフリーの街づくりを進める」とが五輪のレガシー（遺産）となる」と主張。少子高齢化、人口減少など社会の構造的変化に対応した政策実現に全力を尽くすと語った。



東京

「国民の期待に応えて安心を伝えていく」政策を訴える山口代表（中央）、前田左がら（左）、太田議長（右）の演説の様子。2日、東京・新大塚駅前。